

- 2面 サンマの大漁目指し出漁
気仙沼港、大船渡港、小名浜港、花咲港
- 3面 外国人漁業技能実習生の
以東機船底引き網漁船
出港式(九州関門)
労働関係法令講習会(九州関門/長崎)

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <https://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行 第3096号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2025年(令和7年)
9月15日
本紙は毎月5・15・25日発行

〒106-0032 東京都港区
六本木7丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-6910-5339
定価 1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

中野洋昌国土交通大臣が関西地方支部に来組 海運政策について意見を交わす

海運業界の喫緊の課題、船員後継者の確保・育成

7月17日、中野洋昌国土交通大臣が全日本海員組合の関西地方支部に来組し、国政報告会が行われた。この日は関西地方支部の大会議室に、海員組合が担当する会社や職場委員、現場組合員、執行部など約60人が参集し、中野洋昌国土交通大臣から最近の国政情勢や海運業界の問題・課題についての報告がなされ、続いて加藤琢二日本旅客船協会会長が、旅客船業界や海運業界の現状を説明するとともに、海運業界全体の喫緊の課題である船員の後継者確保・育成には、国策による対応策が必要であると海運・船員政策の実現を強く促した。



海運業界を盛り上げたいと語る中野洋昌国土交通大臣



中野洋昌国土交通大臣を囲んで(本組合関係者)



海運業界の現状を説明する
日本旅客船協会の
加藤琢二会長

中野洋昌国土交通大臣から国政情勢については「昨今の物価上昇に即応するため、物価上昇を上回る賃上げが必要不可欠であり、組合には奮闘していただきたい」との激励の言葉があり、生活に必要な電気・ガス代の負担軽減策を

海運業界については、物流の24年問題を起因とした海上

また船員職業の後継者確保・育成問題や中東情勢をはじめとする地政学リスク、急激

価格の高騰が海運業界に悪影

輸送へのモータリゼーションに期待が高まっており、港町神戸から海運業界を盛り上げたいとする旨の意気込みが述べられた。

な不安による燃料油価格高騰には、引き続き取り組んでいくことが述べられた。

最後に浦隆幸関西地方支部長から「本日は緊急のお声がけにもよらず国土交通大臣の国政報告を拝聴するため、日本旅客船協会会長をはじめとする関係各社の皆さん、本組合執行部と組合員の皆さんが参集したこと、大変心強く思います。海運業界には、さまざまな問題が山積しており、本日の意見交換などで、国土交通大臣と共通認識を図れたと思います。ご参集いただきました皆さまと共に、ここ神戸の地から海運業界を盛り上げていきたいと思

います」とあいさつし、中野洋昌国土交通大臣の国政報告会を終了した。

最後に浦隆幸関西地方支部長から「本日は緊急のお声がけにもよらず国土交通大臣の国政報告を拝聴するため、日本旅客船協会会長をはじめとする関係各社の皆さん、本組合執行部と組合員の皆さんが参集したこと、大変心強く思います。海運業界には、さまざまな問題が山積しており、本日の意見交換などで、国土交通大臣と共通認識を図れたと思います。ご参集いただきました皆さまと共に、ここ神戸の地から海運業界を盛り上げていきたいと思

います」とあいさつし、中野洋昌国土交通大臣の国政報告会を終了した。



報告会の様子



中野洋昌国土交通大臣を囲んで
(関西地方支部が担当する会社の皆さん)

気仙沼港



秋の味覚サンマの大漁目指し

気仙沼港

大船渡港

花咲港

小名浜港

から出漁

大船渡港

気仙沼港
福来旗で大漁願う

8月7日、気仙沼港からサンマ棒受け網漁船10隻が北海道花咲港へ向け出港し「出船送り」では乗組員の家族や漁業関係者をはじめ、地元の人たち約千人が、見送りに駆け付けた。

気仙沼の伝統ともいえる福来旗を振り、船頭の好みの音楽を流し、威勢よく出港する出船送りのセレモニーは、気仙沼の字岸壁で行われ、はじめに菅原茂気仙沼市長から「航海の安全と大漁を心から祈念する」とのあいさつがあり、各船を代表して宮城船団長の「第八十一豊清丸」中館捷夫漁労長が「われわれが一丸となり、気仙沼がサンマ水揚げ本州一になるよう、頑張つて行つてまいります」と応

えた。

出港時には、市内の7団体による太鼓の見送りが盛大に行われ、見送る人たちは、色鮮やかなテープを手に、航海の安全と大漁を願った。

大船渡港

安全第一で出港

8月8日、大船渡港から鎌田水産株式会社のサンマ棒受け網漁船6隻が出港し、乗組員の家族や漁業関係者、地元の人たちが駆け付けた。

出船式は、大船渡魚市場で行われ、はじめに渕上清大船渡市長のあいさつがあり、続いて乗組員を代表し「第十八三笠丸」の高橋昇司漁労長から「第一に安全です。その上で大漁になるよう努め、笑顔で大船渡に入港したい」と応え、北海道花咲港に向け出港した。《気仙沼支部・発信》

北海道・花咲港

航海安全と豊漁満足を狙う

サンマ棒受け網漁船は8月10日の一斉解禁（小型・中型・大型船）で出漁することとなり、根室船団は10日の午前0時に根室の花咲港から出漁した。港には乗組員の家族をはじめ、漁業関係者などが見送りに駆け付けた。

各船は昨年の豊漁に続くことを期待し、航海・操業の安全と早期満船・豊漁満足を目指し出漁した。今季のサンマは魚体も大きく、昨年以上に期待されている。

《道東支部・発信》

小名浜港

大漁満足を期待

サンマ漁が8月10日に解禁になるのを受け、福島県の船

団が8月6日、いわき市小名浜港を出港した。北海道沖で漁を行い、早ければ10月中旬に同港に水揚げする見通し。この日は、江名漁業協同組合所属の「第三十八福吉丸」など6隻が、北海道の釧路港に向けて出港した。四家義昭漁労長は「おいしいサンマを小名浜港に揚げて、地元を活性化したい」と意気込んだ。

《小名浜支部・発信》

サンマ漁の出港日和に航海安全と大漁祈願

花咲港



小名浜港



外国人漁業技能実習生

以東機船底曳網漁船出港式
／労働関係法令講習会



山口県・下関港



山口県／外国人技能実習生の労働関係法令講習会



長崎県浜市／外国人技能実習生の労働関係法令講習会

晴天に恵まれた8月15日の下関港で、下関漁港を拠点とする山口県以東機船底曳網漁業協同組合所属の沖合底引き網漁船の出港式が行われた。出港式には、乗組員の家族

や漁業関係者が出席し、出港式に先立ち、航海安全・大漁祈願祭が執り行われた。続いて、山口県以東機船底曳網漁業協同組合の宮本洋平代表理事組合長が「海洋環境

の変化や燃料油価格、物価高騰など課題は山積しているが、持続的に事業を発展させていくことが、われわれの最大の使命である」とあいさつした後、漁労長と漁業技能実

習生を中心とする乗組員の紹介が行われた。その後、鏡開きと大漁三唱、散餅式などが行われ、下関市役所吹奏楽団による演奏の中、大漁旗を掲げた漁船が、見送る人たちに汽笛で応えながら一斉に出港した。

出港後は秋市の見島沖合から長崎県対馬周辺までの海域で来年5月末まで操業し、アンコウをはじめ、アカムツ、カレイ、ヒラメ、タイなど、私たちの食卓を飾る魚の大漁が期待されている。

習生を中心とする乗組員の紹介が行われた。その後、鏡開きと大漁三唱、散餅式などが行われ、下関市役所吹奏楽団による演奏の中、大漁旗を掲げた漁船が、見送る人たちに汽笛で応えながら一斉に出港した。

出港後は秋市の見島沖合から長崎県対馬周辺までの海域で来年5月末まで操業し、アンコウをはじめ、アカムツ、カレイ、ヒラメ、タイなど、私たちの食卓を飾る魚の大漁が期待されている。



出港式の様子



山口県以東機船底曳網漁業協同組合の宮本洋平代表理事組合長が「海洋環境

の変化や燃料油価格、物価高騰など課題は山積しているが、持続的に事業を発展させていくことが、われわれの最大の使命である」とあいさつした後、漁労長と漁業技能実

習生を中心とする乗組員の紹介が行われた。その後、鏡開きと大漁三唱、散餅式などが行われ、下関市役所吹奏楽団による演奏の中、大漁旗を掲げた漁船が、見送る人たちに汽笛で応えながら一斉に出港した。

出港後は秋市の見島沖合から長崎県対馬周辺までの海域で来年5月末まで操業し、アンコウをはじめ、アカムツ、カレイ、ヒラメ、タイなど、私たちの食卓を飾る魚の大漁が期待されている。

2025年9月15日

中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

第40期全国委員の当選告示

一、2025年9月5日付で告示した第40期全国委員補充選挙については、立候補の受け付けを締め切り、立候補者の資格審査を行い、候補者が適格であることを確認した。

対立候補者がいない立候補状況であることから、全国委員選挙規則第25条D項により投票を略し、当選人を次の通りとする。

《企業区・企業単位》

113 鹿児島地区組合員 (補充定員1名・立候補者1名)

当選人 川畑 洋佑 (補充定員1名・立候補者1名)

ENEOSマリンサービス (志布志営業所) 機関長

第40期全国委員の資格喪失告示

一、次の者は、規約第47条A項8号により、全国委員資格を喪失したので告示する。

《企業区・企業単位》

028 商船三井

041 関東地区水産グループ

068 大阪地区内航船Aグループ

中村 浩

平木 恵介

西野 喜美男

第40期全国委員・補充選挙の告示

規約第45条および全国委員選挙規則第25条に基づき、第40期全国委員補充選挙の実施について次のとおり告示する。

一、補充選挙を行う選挙単位と補充定員

《選挙単位コード・単位名》

企業単位 028 商船三井 1名

企業単位 041 関東地区水産グループ 1名

企業単位 068 大阪地区内航船Aグループ 1名

二、補充選挙の実施日程

立候補届出期間 2025年9月15日より

候補者告示 2025年9月24日まで

投票期間 2025年9月25日

2025年10月24日まで

2025年10月25日(予定)

当選人告示

三、補充選挙の被選挙人

(1) 企業区

全国委員選挙規則第25条B項により、補充選挙告示日に補充選挙を行う企業単位に所属する完全資格組合員とする。

四、立候補の届け出

立候補をする者は、全国委員選挙規則付表の一に定める様式に基づき立候補届を担当地区選挙委員会へ提出すること。

五、補充選挙の実施に関する問い合わせ先

中央選挙委員会事務局(総務部)

以上

おけさ丸で記念撮影



ときわ丸で記念撮影



ロープワーク教室のようす



7月26日と27日の2日間、佐渡汽船株式会社のカーフェリー「おけさ丸」と「ときわ丸」の船内で、夏休みの子どもたちに向けたロープワーク教室を開催し、親子を中心に約160人が参加した。

このロープワーク教室は、公益財団法人北陸信越海事広報協会が主催する佐渡汽船乗船ウォッチング「体験乗船会」に含まれるイベントのひとつ。「海の日」イベントについて、公益財団法人北陸信越海事広報協会から相談を受けた浅野忠行新潟支部長が、佐渡汽船株式会社と日本海船舶株式会社の職場委員の協力を仰ぎ、船の仕事で使うロープワークを学ぶ「ロープワーク教室」を企画・立案した。

報協会から相談を受けた浅野忠行新潟支部長が、佐渡汽船株式会社と日本海船舶株式会社の職場委員の協力を仰ぎ、船の仕事で使うロープワークを学ぶ「ロープワーク教室」を企画・立案した。

イベント当日、船が新潟港を出港すると、浅野忠行新潟支部長の司会進行のもと、公益財団法人北陸信越海事広報協会の野上亮常務理事が主催者を代表してあいさつした後、イベントスタッフから子どもたちに注意事項を説明して、ロープワーク教室がスタートした。

海の日イベント 佐渡汽船株式会社 船上で子どもたちに ロープワーク教室

ロープワーク教室のようす



イベントスタッフとして活躍した各職場委員は、船員としての実務経験を活かし、本結び・まき結び・もやい結びなどを子どもたちに丁寧に教え、イベントに参加した他の乗船客には、普段の生活で役立つロープワークを教えた。ロープワーク教室終了後は、一般財団法人大日本水産会、佐渡汽船株式会社、日本海船舶会社などから提供されたベーパーラフトやぬり絵を配布すると、子どもたちはしやぐ声で船内は盛り上がった。初めて実施したロープワーク教室は大好評で「海の日」イベントを終了した。

《新潟支部」発信》

船員職業ガイダンス

水産・海洋系高等学校で開催

北海道 東京都 鹿児島県



北海道小樽水産高等学校(ロープワーク教室のようす)



東京都立大島海洋国際高等学校



鹿児島県立鹿児島水産高等学校

7月9日、東京から約120km離れた伊豆大島の東京都立大島海洋国際高等学校で、未来の船員を海へと誘う進路ガイダンスが行われ、5人の生徒が出席した。ガイダンスでは、企画した会社がブースに分かれ、捕鯨や遠洋マグロはえ縄漁業に関する漁法や会社概要などについて説明したほか、迫力ある映像で海の仕事の素晴らしさを伝えた。出席した生徒は、説明に引き込まれ、真剣な表情で捕獲した鯨の解体方法や漁船の操

北海道小樽水産高等学校
中学生に向けて説明会
7月27日の日曜日、北海道小樽水産高等学校の艇庫内で、海洋漁業科主催の説明会「船乗りになろう」が開催され、学校側からの要請で、北海道地方支部の執行部が講師として出席した。

説明会に参加したのは小樽市と札幌市内の中学生24人とその保護者18人。はじめに長谷川智人教頭が「説明会を通じて、少しでも船員に興味を抱き、進路・職業選択に役立てて欲しい」とあいさつし、続いて山崎秀和北海道地方支部長があいさつした。講義では執行部が、プロジェクトを活用し、海運・水産業の概要や船員の仕事・船の種類・船内生活などについて、幅広

《北海道地方支部」発信》
東京都立大島海洋国際高等学校
進路ガイダンス

く説明した。次に福島隆史道南支部執行部員から現役船員の体験談として講話があり、現役船員ならではのエピソードを交えながら、海で仕事をすることの素晴らしさや楽しさを伝えた。その後、班に分かれて小型ボートの体験乗船やロープワーク教室を実施した。

参加した中学生からは、「小型ボート乗船やロープワークなど貴重な体験ができた。入学して深く学んでみたい」との声も上がった。

業期間について質問し、会社側が詳しく説明して理解を深めた後、漁業ガイダンスを終了した。《関東地方支部」発信》
鹿児島県立鹿児島水産高等学校
漁業ガイダンス
7月15日、鹿児島県立鹿児島水産高等学校で漁業ガイダンスが開催され、海洋科2年生の生徒27人が参加した。はじめに主催者の一般財団法人大日本水産会から、あい

さつがあり、生徒は6グループに分かれ、各漁業種のブースを回りながら、漁法や船内作業、船内生活などについて説明を受けた。生徒からは、船員の賃金や休日・休暇、インターネット環境、漁場へ向かう時の作業などについて質問があり、各ブースの担当者から説明を受け、漁業ガイダンスを終了した。

《鹿児島支部」発信》



北海道小樽水産高等学校(小型船舶体験乗船のようす)